

Sentinel[®]RMS

Release Notes
v8.5.0 for Windows



© Copyright 2011, SafeNet, Inc. All rights reserved.
<http://www.safenet-inc.com>

We have attempted to make these documents complete, accurate, and useful, but we cannot guarantee them to be perfect. When we discover errors or omissions, or they are brought to our attention, we endeavor to correct them in succeeding releases of the product.

SafeNet® and Sentinel® are registered trademarks of Safenet, Inc. All other product names referenced herein are trademarks or registered trademarks of their respective manufacturers.

Part Number 007-009435-001, Revision G
July 2011

日本セーフネット株式会社
〒105-0004
東京都港区新橋6丁目17番17号
御成門センタービル 8F
<http://jp.safenet-inc.com/>

目次

本書について	5
Sentinel RMS について	5
今回のリリースの新機能	6
ピーク使用時期に対応するアグリゲート ライセンス	6
未来の日付のアグリゲート ライセンスのロード	7
クライアント側のカスタム ユーザ情報	7
「永久ライセンス」から「レポジトリ ライセンス」への名称変更	8
version 14 ライセンスの導入	8
下位互換性	8
今回のリリースで修正された問題点	9
既知の問題点	11
インストール	12
インストール前の確認事項	12
管理者権限	12
Sentinel RMS のシリアル番号	12
システム要件	13
インストール手順	14
テクニカル サポート	16

M E M O

本書について

本書には、Sentinel® RMS version 8.5.0 for Windows 32-bit and 64-bit の新機能、修正された問題点、およびインストールに関する説明が記載されています。

Sentinel RMS について

Sentinel RMS は、アプリケーションにライセンスを実装するための SDK です。アプリケーションの使用権限を管理し、ソフトウェア製品の売り上げ拡大につながるさまざまなライセンス スキームを提供することにより、収益向上を支援します。また、ネットワーク上のライセンスのトラッキングと管理を行うためのシステム管理者用ツールも提供します。

今回のリリースの新機能

ここでは、今回のリリースの新機能と修正された問題点が記載されています。

ピーク使用時期に対応するアグリゲート ライセンス

Sentinel RMS v8.5.0 よりも前のバージョンでは、排他式ライセンスと加算式ライセンスはどちらも、同じフィーチャ/バージョンの複数のライセンスの組み合わせによって構成されていました。v8.5.0 では、ライセンスの組み合わせを制御するための第三のプロパティとして「アグリゲート ライセンス」が導入されました。

アグリゲート ライセンスを使用すると、複数のライセンス文字列を組み合わせ、ハードリミットとソフトリミットを集約し、個々のライセンス文字列の使用開始日と有効期限日はそれぞれ独立して維持できます。集約されたハードリミットにより、ピーク使用時期における需要の急な増加に対応できます。

アグリゲート ライセンスの特長および関連する機能強化は次のとおりです。

- 個々のライセンスの中で定義されたハードリミットとソフトリミットが集約されます。したがって、許容されるライセンストークン（シート）の最大数は、その時点におけるハードリミットの合計数です。
- 集約されるライセンスは、以下を除き、同じライセンスプロパティを持たなければなりません。以下のプロパティは、異なっても同じであっても、どちらでも構いません。
 - 開始日
 - 終了日
 - ハードリミット
 - ソフトリミット
 - クライアントロック基準/情報
 - ライセンス出力タイプ（暗号化フォーマット/簡略形式の可読フォーマット/拡張形式の可読フォーマット）
- アプリケーションに対して発行されるトークンは常に、集約される各ライセンスで定義されている中で最も早い開始日と最も遅い使用期限日（終了日）を持ちます。
- アグリゲート ライセンスを使用可能にするためには、ライセンスサーバ v8.5.0 がデプロイされていなければなりません。
- アグリゲート ライセンスの優先順位は、排他式ライセンスよりも低く、加算式ライセンスよりも高くなります。
- アグリゲート ライセンスは、lscgen / WlscGen ユーティリティ、または今回のリリースに含まれているライセンスジェネレータライブラリを使用して生成できます。次のページの図は、lscgen の画面を示しています。

- ライセンス ジェネレータ ライブラリを使用する場合は、新しい API の VLScgAllowAggregateLicense を呼び出してアグリゲート ライセンスのプロパティ値の組み合わせを検証してください。

関連項目

- [7 ページの「未来の日付のアグリゲート ライセンスのロード」](#)
- 『Sentinel RMS Developer's Guide』の第 16 章「アグリゲート ライセンスとピーク使用」

```

Sentinel RMS Development Kit 8.5.0.0006 License Generation System
Copyright (C) 2011 SafeNet, Inc.

Please type the desired responses at the prompts below.
Desired length and options of licensing code format -
  [1] - Long code
  [2] - Short numeric code
Please enter choice: 1
Feature name (any printable characters): F1
Feature version number (any printable characters): U1
Desired licensing code -
  [0] - No capacity
  [1] - Non-pooled capacity
  [2] - Pooled capacity
Please enter choice: 0
Do you want to generate trial license? (Y/N) :N
Please enter the desired client library behavior -
  [0] - Network licensing
  [1] - Standalone licensing
  [2] - Perpetual licensing
Please enter choice: 0
Enter log file encryption Level(0 - 4)[1]:1
Combining property of licensing code -
  [0] - Additive license (number of tokens will get added)
  [1] - Exclusive license (will override additive licenses)
  [2] - Aggregate license (additive without any restrictions)
Please enter choice: 2
Proprietary vendor information (any printable characters)
This information will be encrypted in the license string: _

```

Iscgen の Aggregate License オプション

未来の日付のアグリゲート ライセンスのロード

以前のバージョンでは、開始日が未来の日付のライセンスはライセンスサーバにロードできませんでした。今回のバージョンでは、開始日が未来の日付のアグリゲート ライセンスはロードしてインアクティブ状態にしておくことができます。その後、ライセンスの開始日が来ると、そのライセンスはシームレスにライセンス リクエスト/サービス プロセスに組み込まれます。したがって、未来の日付のアグリゲート ライセンスがソフトウェアの需要増加を見越してデプロイされていれば、その需要を満たすことができます。

注記： 開始日が未来の日付のアグリゲート ライセンスは、ライセンスサーバにロードできませんが、その開始日が来るまではリクエストや集約の対象にはなりません。

クライアント側のカスタム ユーザ情報

新しいクライアント側 API の VLssetCustomData を使用してカスタム ユーザ情報を設定できるようになりました。このカスタム ユーザ情報は、ライセンス リクエスト API または同類の API が呼び出されると、ライセンスサーバに渡されます。この情報は以下の方法で検索できます。

- ライセンスサーバの Usage ログ (Usage ログ ファイルのユーザ名およびホスト名フィールド)
- クエリ API (VLSgetClientInfo および VLSgetHandleInfo)
- WlmAdmin または lsmon ユーティリティ

『Sentinel RMS API Reference Guide』の "Appendix B - Customization Features" の "Setting Custom Client Information" を参照してください。

「永久ライセンス」から「レポジトリ ライセンス」への名称変更

Sentinel RMS v8.5.0 では、「永久ライセンス」は「レポジトリ ライセンス」に名称変更されました。この変更は既存のライセンスには影響しません。

レポジトリ ライセンスの詳細については、『Sentinel RMS Developer's Guide』の第9章「レポジトリ ライセンス」を参照してください。

version 14 ライセンスの導入

アグリゲート ライセンスの導入により、Sentinel RMS ライセンスの新バージョンである version 14 ライセンスが導入されました。

下位互換性

ライセンス サーバ、クライアント、およびライセンス ジェネレータ ライブラリは下位互換性があります。ただし、v8.5.0 よりも前のバージョンの Sentinel RMS クライアント ライブラリを使用してライセンス実装されたアプリケーションは、ライセンス サーバ v8.5.0 (またはそれ以降) に対して version 14 のアグリゲート ライセンスを照会またはリクエストすることはできません。

今回のリリースで修正された問題点

今回のリリースでは、以下の問題点が修正されました。

WT / Task Ref#	問題点の説明	他のドキュメントでの説明の有無
84917	(デフォルト ポート 5093 ではなく) カスタム ポートを使用するライセンス サーバを監視するために、WlmAdmin ユーティリティにオプションが提供されました。このオプションを使用することにより、システム管理者はライセンス サーバを定義済みサーバのリストに追加する前に、ライセンス サーバ用のカスタム ポートを設定できます。	有 『Sentinel RMS SDK System Administrator's Guide』の WlmAdmin ユーティリティの説明を参照。
84938	CodeCover コマンドライン ユーティリティは、追加の出力ファイル (スタンドアロン コンフィグレーション ファイル、および .NET の強化機能を使用する場合は SDNpro.dll / SDNpro64.dll など) をコピーできませんでした。 この問題は今回のバージョンで修正されました。また、追加のファイルは、相対パス名が使用されている場合でも、プロテクトされたファイルと一緒にコピーされるようになりました。	無
84945	グレース ライセンスがすでにインストールされているシステムに同じフィーチャ/バージョンのスタンドアロン ライセンスがインストールされると、MSVS 2008 対応の Sentinel RMS ライセンシング ライブラリとリンクされたアプリケーションはクラッシュしていました。 この問題は今回のバージョンで修正されました。上記の状況でも、アプリケーションはクラッシュしなくなりました。	無
84952 84989	ライセンス文字列の一部が切り捨てられて入力された場合に、lsdecode ユーティリティおよび/またはデコード用ライブラリ (API の VLScgDecodeLicenseExt) がクラッシュすることがありました。 この問題は今回のバージョンで修正されました。上記の状況では、エラー VLS_INVALID_LICENSE が返されます。	無
84980	UAC ^a がオンになっていてライセンス アプリケーションが非管理者権限で実行された場合、Windows Vista または Windows 2007 システムでは、ハード ディスクのシリアル番号に基づくロック情報を取得できませんでした。この問題は今回のバージョンで修正されました。	無
84987	ライセンス ジェネレータ DLL が使用された場合、API の VLScgPrintError がクラッシュしていました。今回のバージョンでは、ライセンス ジェネレータ DLL と併用できる新しい API の VLScgPrintErrorExt が導入されました。 注記: ライセンス ジェネレータ ライブラリのスタティックバージョンが使用される場合は、引き続き VLScgPrintError を使用できます。	有 『Sentinel RMS API Reference Guide』の VLScgPrintErrorExt API の説明を参照。
84993	特定のライセンス サーバ上でライセンスが見つからずにクライアントがブロードキャスト モードに切り替わる場合、応答の遅延が発生していました。クライアントにグレース ライセンスがインストールされていなければ、ただちにエラー VLS_NO_SUCH_FEATURE が返される必要がありましたが、サブネット上のライセンスを検索するためにブロードキャスト モードに切り替わっていました。 この問題は今回のバージョンで修正されました。上記の状況では、ただちにエラー VLS_NO_SUCH_FEATURE が返されるようになりました。	無

WT / Task Ref#	問題点の説明	他のドキュメントでの説明の有無
84997 85098	<p>ペイロード サイズが大きい場合、Sentinel RMS パケット伝送の障害 (タイムアウト) が発生していましたが、今回のバージョンで修正されました。パケット伝送は 1432 バイトよりも小さいパケット サイズに最適化されて実行されます。</p> <p>この変更を反映するために、Sentinel RMS CodeCover にも新しいライセンス ライブラリが追加されました。</p>	無
85001	<p>lshost ファイルに LSHOST 環境変数と同じ設定が含まれている場合、ライセンス アプリケーションは、lshost ファイルで定義された設定を、要求されたとおりの順序で実行できませんでした。この問題は今回のバージョンで修正されました。動作は LSHOST 環境変数と同じになりました。</p>	無
85003	<p>lsclean.exeによってLSCLEAN.LOGに書き込まれるメッセージにスペルミスが含まれていました。この問題は今回のバージョンで修正されました。</p>	無
85004	<p>スタンドアロン ライセンシングの場合、API の VLssetFileName による設定は、LSERVOPTS 環境変数を使用して指定されたライセンス ファイル名よりも優先される必要があります。今回のバージョンで、この動作が確認されました。</p>	無
85019	<p>スタンドアロン システムで、コンピュータ ライセンスの期限が切れた後、同じフィーチャ/バージョンのノーマル ライセンスがインストールされた場合、クリーンアップ オペレーション (API の VLScleanExpiredCommuterCode の呼び出し) により、ノーマル ライセンスとコンピュータ ライセンスの両方がクリーンアップされていました。</p> <p>この問題は今回のバージョンで修正されました。コンピュータ ライセンスのみがクリーンアップされるように修正され、ノーマル ライセンスはライセンス テーブルにそのまま残るようになりました。</p>	無
85051	<p>グループ リザベーションでのトークン共有の問題は、今回のバージョンで修正されました。</p>	無
85062	<p>パーミッション チケット (PT) に含まれているベンダ ID とライセンスのベンダ ID が一致しない場合に、ライセンス リボケーションは失敗していました。この問題は、今回のバージョンで修正されました。</p>	無
85079	<p>トークンが最大期間チェックアウトされている間にクライアント マシンがクラッシュした場合、ライセンス サーバ上のコンピュータ情報のクリーンアップが必要でした。この問題は今回のバージョンで修正されました。</p> <p>チェックアウトされたトークンをライセンス サーバに戻すために、API の VLScleanNetworkPersistenceInfo によるクリーニング オプションが提供されました。</p>	有 『Sentinel RMS Reference Guide』の VLScleanNetwork PersistenceInfo API の説明を参照。

a. Windows Vista OS (およびそれ以降) に適用される User Account Control.

既知の問題点

今回のバージョンで確認されている既知の問題点は次のとおりです。

- アグリゲート ライセンスはチェックアウトできない。

今回のバージョンでは、アグリゲート ライセンス トークンはコンピュータ用にチェックアウトできません。同様に、レポジトリ ライセンスに対するライセンス リクエストはワークステーション上で失敗します。

- エラー コード `LS_INSUFFICIENTUNITS` の代わりに `LS_NOLICENSESAVAILABLE` が返される (Defect ID #125622)。

ライセンス A の期限切れ後にライセンス B に切り替わった場合、ライセンス A のトークン数がライセンス B よりも多ければ、ライセンス A のリクエスト ハンドルに対する `LSUpdate` 呼び出しで、エラーコード `LS_INSUFFICIENTUNITS` の代わりに `LS_NOLICENSESAVAILABLE` が返されます。

インストール

ここでは、Sentinel RMS のインストールに関する以下の情報が記載されています。

- 12 ページの「インストール前の確認事項」
- 13 ページの「システム要件」
- 14 ページの「インストール手順」

インストール前の確認事項

Sentinel RMS のインストールを開始する前に、以下を確認してください。

管理者権限

すべてのコンポーネントをインストールするためには、管理者権限を持っていなければなりません。

Sentinel RMS のシリアル番号

インストール時に、SafeNet から提供されるシリアル番号が必要になります。シリアル番号は、Sentinel RMS ソフトウェアに付属のカードに記載されています。

システム要件

ハードウェア要件	ソフトウェア要件
<ul style="list-style-type: none"> ■ プロセッサ 32ビット版 x86 プロセッサまたは 64 ビット版 x86-64 プロセッサ ■ モニタ 解像度 800 x 600 の VGA モニタ（推奨解像度は 1024 x 768） ■ ハードディスク容量 1150MB のハードディスク空き容量 <p>注記： Sentinel RMS のインストール後にドライブごとのページ ファイルの初期サイズ（単位は MB）分の空き容量があることを確認してください。空き容量の不足は、システムのパフォーマンスに影響を及ぼすことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ RAM Windows 2000 / XP / 2003 では 128MB の RAM。Windows Vista およびその他の OS では 1GB の RAM（これらは推奨値。推奨値を下回るとインストールに時間がかかります）。 ■ インターフェース USB ポートまたはパラレル ポート。ライセンスメータ キーの装着に使用します。これは、ライセンスが生成されるシステムに必要です。 ■ ディスク ドライブ CD-ROM ドライブ（Sentinel RMS インストーラを CD で受け取った場合にのみ必要） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ オペレーティング システム サーバコンピュータ： 32 ビット版 Windows Server 2000 / 2003 / 2008 64 ビット版 Windows Server 2003 / 2008 / 2008 R2 クライアントコンピュータ： 32 ビット版 Windows 2000 / XP / Vista / 7 64 ビット版 Windows XP / Vista / 7 ■ コンパイラ Microsoft Visual Studio 6 for 32-bit Microsoft Visual Studio 2005 for 64-bit Microsoft Visual Studio 2008 for 32 and 64-bit Microsoft Visual Studio 2010 for 32 and 64-bit ■ Web ブラウザ Internet Explorer 5.0 以降 Mozilla Firefox 1.0 以降：オンライン ドキュメント (HTML ヘルプ) の閲覧用 ■ PDF ファイル ビューワ Adobe Acrobat 4.0 以降：PDF ドキュメントの閲覧用

インストール手順

1. インストールメディアのルートにある StartHere.exe をダブルクリックします。スタート画面が表示されます。



インストール オプションが表示されるスタート画面

2. [Sentinel RMS Development Kit 8.5.0 Software] の下の [Install] ボタンをクリックします。[Welcome] 画面が表示されます。

注記： ここに記載されている手順に従って Sentinel RMS インストールする際、[Sentinel RMS License Manager Installer] の下の [Install] ボタンをクリックする必要はありません。これは Sentinel RMS License Manager¹のみをインストールするためのボタンですが、Sentinel RMS License Manager は Sentinel RMS のインストール時にシステムに自動でインストールされます。

3. [Next] をクリックします。ライセンス契約の画面が表示されます。
4. ライセンス契約に同意して、[Next] をクリックします。
5. [Customer Information] ダイアログボックスで、氏名、会社名、および Sentinel RMS シリアル番号を入力します。このシリアル番号は Sentinel RMS プロダクトパッケージに含まれている番号で、各開発者に固有です。シリアル番号を入力することにより、Sentinel RMS がカスタマイズされます。
6. SDK のインストールディレクトリは変更して構いません。デフォルトのインストールディレクトリは次のとおりです。

```
<OSdrive>:\Program Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS
Development Kit\<version>\English
```

7. インストールのタイプとして [Complete] または [Custom] を選択します。
8. システムのファイアウォール設定を変更するための画面が表示されます。

1. 「ライセンスサーバ」ともいいます。

ライセンスサーバとの通信を許可するためには、チェックボックスをオンしておきます。この設定により、システムのファイアウォールの例外リストにライセンスサーバ（「Sentinel RMS License Manager」ともいいます）が追加されます。

チェックボックスをオフにすると、ライセンスサーバとの通信が禁止されます（この設定は推奨しません）。

9. 画面の指示に従ってインストールを完了します。
10. インストールが完了すると、スタート画面が再度表示されて、ただちにアプリケーションにライセンスを実装するよう求められる場合があります。ただし、このオプションは、ウィザードベースの自動プロテクション機能である Sentinel RMS CodeCover を使用して実行可能ファイルと DLL にライセンスを実装したい場合に限り、使用してください。

テクニカル サポート

ご質問および技術的なお問い合わせについては、下記のテクニカル サポートをご利用ください。

カスタマー コネクション センター (C3)
<p>http://c3.safenet-inc.com</p> <p>カスタマー コネクション センター (C3) にアカウントをお持ちの場合は、ログイン後、インシデント管理、最新版のソフトウェアの入手、SafeNet のナレッジベースへのアクセスができます。</p>
サポート & ダウンロード サイト
<p>http://www.safenet-inc.com/Support</p> <p>ナレッジベースへのアクセスや各種ソフトウェアのダウンロードができます。</p>
電子メールでのお問い合わせ
<p>support@safenet-inc.com</p>